

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おもちゃ箱ふれあいの丘[児童発達支援]			
○保護者評価実施期間	R8年 8月 1日		～	R8年 8月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	R8年 8月 1日		～	R8年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 8月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達段階や特性に応じた個別支援	児童一人ひとりの発達段階や特性、生活状況、本人・保護者のニーズを把握するため、日々の行動観察や保護者からの聞き取り等を通してアセスメントを行い、児童発達支援計画を作成しています。 日々の支援では、個別支援計画の目標を職員間で共有し、児童の発達段階に合わせて活動内容や声かけ、提示方法等を調整しています。また、個別でじっくり取り組む時間と、他児や職員と一緒に経験する集団活動を組み合わせ、一人ひとりが安心して参加しながら新しい経験を積めるよう支援しています。	乳幼児期は短期間でも発達や行動に大きな変化が見られる時期であることを踏まえ、日々の小さな変化や「できるようになったこと」について職員間で共有し、必要に応じて支援方法を柔軟に見直していきます。 児童ができなかったことだけに着目するのではなく、興味関心や得意なことを支援の入口として活用し、「やってみたい」「できた」という経験につながる支援を積み重ねながら、個々の発達を支えてまいります。
2	保護者との日常的な情報共有と連携	児童の発達を支える上では、ご家庭と事業所が児童の様子について共通理解を持つことが重要であると考えています。そのため、送迎時のやり取りや事業所利用システム等を活用し、支援中の様子や活動への参加状況、できたこと、気になったこと等を保護者へお伝えしています。 また、ご家庭での様子や保護者からの相談についても丁寧に伺い、必要に応じて職員間で共有し、日々の支援や個別支援計画へ反映しています。保護者評価では「日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、共通理解ができている」について3名全員から「はい」との評価をいただいています。	今後も日常的なコミュニケーションを大切にし、事業所から児童の様子を一方的にお伝えするだけではなく、ご家庭での困りごとや成長、保護者が感じている変化についても共有していただける関係づくりに努めています。 ご家庭と事業所で関わり方や支援の方向性を共有し、児童が異なる生活場面でも安心して過ごせるよう、必要に応じて関係機関とも連携しながら支援を行っています。
3	専門性の向上とチームによる支援	児童の発達や障害特性を適切に理解し支援につなげられるよう、法人内研修や外部研修等を通して職員が継続的に学ぶ機会を設けています。また、毎日の朝礼等を活用し、その日の利用児童の状況や支援上の留意点、職員配置、役割分担等を共有し、職員間で共通理解を持って支援に入れるよう努めています。児童発達支援管理責任者のみが支援方針を考えるのではなく、日頃児童と関わる職員の気づきや意見も取り入れ、複数の視点から児童の姿を捉えながら支援方法を検討することを大切にしています。	研修で得た知識を職員個人の学びに留めず、職員間で共有し、「実際の支援のどの場面で活用できるか」まで検討することで、研修と日々の実践を結び付けていきます。 児童の行動だけを見るのではなく、その背景にある発達特性や環境、気持ち等について職員間で検討する機会を大切にし、支援方法や環境設定について多角的に考えられるチームづくりを進めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童にとって分かりやすい環境構成・構造化	児童が安心して活動に参加するためには、「どこで」「何をするのか」「次に何をするのか」が分かりやすい環境づくりが重要であると考えています。	現在行っているマットの色分け等によるゾーニングを活用し、遊ぶ場所、活動する場所、個別に落ち着いて過ごす場所等を視覚的に分かりやすくしていきます。また、言葉による説明だけでは理解が難しい児童については、絵や写真等の視覚情報も取り入れながら、見通しを持って活動できる環境づくりを進めていきます。環境設定についても一律に行うのではなく、児童それぞれの発達段階や感覚特性、理解の仕方等を踏まえて調整し、「児童自身が分かる環境」という視点から継続的に見直してまいります。
2	家族支援・保護者が学び交流できる機会	日々の情報共有については保護者から高い評価をいただいている一方、家族支援プログラムや保護者が参加できる研修・情報提供については「はい1名、どちらともいえない1名、わからない1名」と回答が分かれています。また、保護者・きょうだい同士の交流についても同様に回答が分かれており、家族全体を対象とした支援については今後さらに充実させる必要があると考えています	日頃の相談対応や送迎時等の情報共有を継続するとともに、児童の発達特性や家庭での関わり方など、保護者の皆様が子育ての中で活用できる情報を提供する機会について検討していきます。 保護者同士が情報を交換したり、家族で参加したりできる行事等についても、ニーズを確認しながら実施方法や内容を検討していきます。家族支援として現在行っている取組についても積極的に発信し、「相談できる場所」「一緒に児童の成長を考えられる場所」と感じていただける事業所づくりに努めてまいります。
3	関係機関・地域との連携と交流機会	児童発達支援では、事業所での支援だけではなく、ご家庭や幼稚園・保育園等、児童が日常的に過ごす場所との連携が重要です。一方、限られた支援時間や利用日数の中で、地域や他児と交流する機会を継続的に設けることには難しさもあります。実際に連携や交流を行っていても、その内容が保護者の皆様に十分伝わっていない場合も考えられるため、実施機会の充実だけでなく、取組の「見える化」も課題として捉えています。	保護者のご意向を確認しながら、必要に応じて幼稚園・保育園、相談支援事業所等の関係機関との情報共有を行い、事業所と家庭、関係機関が共通した方向性で児童の発達を支えられるよう連携を進めていきます。系列・近隣事業所との交流、地域施設への外出等を活用し、児童の発達段階に合わせて無理なく地域や他児と関わる経験を設けていきます。交流すること自体を目的とするのではなく、挨拶、順番、公共の場での過ごし方など、児童の社会性や生活経験につながる活動として実施してまいります。

	その他、アンケート結果やご要望等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
--	------------------	----------------------

1	児童に分かりやすい環境づくりについて	児童発達支援では、言葉による説明だけではなく、「どこで何をするのか」「次に何をするのか」が児童自身に分かる環境設定を大切にしています。今後もマットの色分け等によるゾーニングや、活動する場所・遊ぶ場所・落ち着いて過ごす場所の明確化、必要に応じた絵や写真等の視覚支援を活用してまいります。また、同じ環境設定がすべての児童に適しているとは限らないため、一人ひとりの発達段階や感覚特性、理解の仕方に応じて環境を調整し、より安心して活動に参加できる環境づくりに努めます。
2	家族支援・保護者が学び交流できる機会について	送迎時や事業所利用システム等を活用した日常的な相談・情報共有を引き続き大切にしながら、児童の発達特性や家庭での関わり方等、保護者の皆様が日々の子育てに活用できる情報を提供する機会について検討してまいります。 保護者やきょうだいを含めた家族で参加できる行事や交流機会についても、保護者の皆様のニーズを伺いながら実施方法や内容を検討します。現在行っている家族支援についても分かりやすく発信し、「相談できる場所」「一緒に児童の成長を考えることのできる場所」と感じていただける事業所づくりに努めてまいります。
3	面談・相談機会について	日々の送迎時や事業所利用システムによる情報共有だけでなく、モニタリング面談等を通して児童の成長や現在の課題、ご家庭での様子について丁寧に確認する機会を大切にしております。定期面談に限らず、保護者の皆様が相談したいタイミングで相談できることを改めて周知し、必要に応じて面談の機会を設定します。ご家庭と事業所で児童の成長や支援の方向性を共有しながら、一緒に支援を考えていける関係づくりに努めてまいります。